

'95 洛西ふれあいまつり

場所 ふれあいの里周辺—— ■スポーツ広場
■ふれあい会館 ■芝生の広場 ■散策の森



19951016
[9505]
総26号
発行
桂坂
自治連合会
広報編集部

九月二四日に行われる予定の「ふれあいまつり」はあいにくの雨で延期になりました。

今回は、市の「市民すこやかフェア」がこの桂坂で同時に開催されることになり、祭りも一層賑わうことになりました。

この催しは「洛西ふれあいの里」の施設や学校を利用したり、通学している人たちと、地域の住民とが自由にふれあい、ともに生きがいを創造する福祉あふれる「ふれあいの風土づくり」を目指すものです。

「みんなで創ろう みんなの福祉」を合い言葉に、西京の皆さんが集います。ご近所お誘い合わせの上、この「ふれあい祭り」にご参加ください。

■ 当日の模擬店などはすべて現金販売です。
■ 「ふれあいステージ」の催物は、雨天の場合、西養護学校の体育館に会場を変更して行われます。

三日のふれあい会館

午前9時～午後4時

- 健康相談コーナー
- 体力測定コーナー
- 保健福祉なんでも相談
- 老人福祉施設作品展
- 子供の平和絵画展など

'95 市民すこやかフェア

11月3日(祝日・金) ふれあい会館

この「市民すこやかフェア」は、京都市と市民すこやかフェア実行委員会の主催です。十一月三日の祝日を、秋空の下で、元気に歩いて、爽やかな汗を流し、健康で有意義な一日を過ごそうという試みです。

問合せ先

京都市民生局高齢福祉課
☎2222-13192

「I」すこやか

健康ウォークラリー
集合 ふれあいの里

「芝生の広場」
九時三〇分より受付

参加費 一人 二〇〇円
(幼児以下は無料)

(先着二〇〇名様に参加賞)
「ふれあいの里」発着の桂坂
一円「2km・4kmコース」

「II」すこやか健康ウォーク

集合 川岡小学校(桂駅東口
から南へ五分)

九時受付・九時半開始
川岡小学校↓桂高校↓檜原↓
9号線秤谷↓桂坂↓ふれあい
会館(ゴール)

(先着五〇〇名様に参加賞)

京都市市民防災センター 防災体験に参加して

しらかば自治会 日比野 俊之

去る九月二四日(日)、昨夜からの台風の影響による悪天候にもかかわらず、桂坂自主防災会のメンバー五七名が、京都市市民防災センターにおける「防災体験」に参加しました。

桂坂自主防災会の発足後は毎年、この「防災体験」が行われていますが、今回は西京消防署の協力を得て京都市が平安遷都一二〇〇年を機に「平成の都づくり」の一環として、今年の九月にオープンしたばかりの市民防災センターで実施されました。

その内容は、火災予防・地震対策等の防災講話にはじまり、京都の各種災害の歴史や恐ろしさをハイビジョン映像で紹介する「映像体験室」、風速三〇メートルの強風下で体験する「強風体験室」、震度7を模擬リビンク内で体験し地震発生時の対応を訓練する「地震体験室」、煙や熱気の充満する室内で避難行動を体験する「避難体験室」、モニターに模擬火災を映写し消火器で消火方法を学ぶ「消火体験訓練室」、そして最後にお年寄りの方、妊婦の方、身障者の方などの立場になったの介護等の研修でした。



参加ご希望の方は、一〇月二〇日までに、各自自治会の「社会福祉」関係の役員さんまで申込んでください。

先般、桂坂の社会福祉協議会より回覧板によって案内がありました。今年もボランティアの人たちの協力を得て「高齢者会食会」が開かれます。

七〇才以上の方が対象です。

私たち桂坂山の手俱樂部は、創立四年目を迎え、会員も年を追って増加、いま二〇〇余名が元氣いっぱい「生きがいづくり」の活動に励んでいます。

その活動の一部、文化サークルの平素の作品や、会員の多様な趣味から創りだしました作品を、皆さんに観ていただくこと、昨年より桂坂「趣味の作品展」を開いて参りました。

今年も昨年に引き続き、第二回展を、下記の要領により開催いたしますので、地域の皆さまにも観にきていただきますようご案内申し上げます。



私たちの作品展 10月24日～27日

主催 桂坂山の手俱樂部
会場 京都中央信用金庫「桂坂支店」
一階ロビーと二階ホール

会期 一〇月二四日(火)～二七日(金)
九時～一六時
但し、最終日のみ一三時まで

作品 画・書・工芸・文芸・手芸・写真・生花・その他

山の手俱樂部 木村 義成

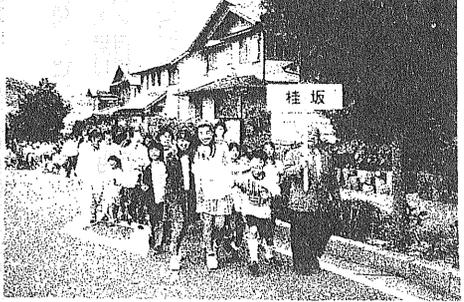
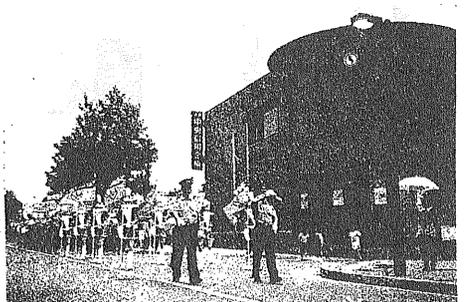
交通安全を願い桂坂をパレード

西京区 交通安全のつどい——9月23日



去る九月二三日(日)に桂坂小学校において、西京区交通安全のつどいが各学区から約六〇〇名の参加者を迎えて催されました。

その後、運動場で、京都府警の音楽隊、カラーガード隊、平安騎馬隊の演奏や演技があり、引き続き、それら華やかな各「隊」を先頭に学区内をパレードしました。



桂坂交通安全推進会・同婦人会

しらかば 総合優勝

2位 ぼぶら 3位 はなみずき

自治会対抗は競技・応援ともに自然と力が入ります。小学生の皆さんも学校の体育祭とはひと味違った雰囲気の中で、綱引きに精魂をこめ、また懸命にゴール目指して走りました。自治会対抗の競技の結果をお知らせします。

綱引き	1位 つばき	2位 あかしあ	3位 さつき
リレー			
小学男子	1位 つばき	2位 さつき	3位 ぼぶら
小学女子	1位 ぼぶら	2位 はなみずき	3位 あかしあ
一般	1位 はなみずき	2位 しらかば	3位 ぼぶら
総合(得点)	1位 しらかば (236点)	2位 ぼぶら (229点)	3位 はなみずき (219.5)

御礼

体育祭を終えて
桂坂体育振興会 役員一同

降雨確率五〇%の雨模様ながらグラウンドコンディションも悪くなく決行させていただきました。

予想通り参加者の出足が鈍く心配していましたが、時間の経過とともに参加・応援の方も増え、皆様方の日頃のご精進がよかったです。いよいよか、熱気とともに雨を追い払い、お蔭で傘を開くこともなく、盛況裡に無事終了しました。

今年、けやき自治会が初参加されました。合計九つの自治会となり、年々ともに盛り上がりを見せています。主催者側にとっては嬉しい限りです。

今年、初めての試みとして、約三・五kmの「桂坂マラソン」を実施しました。当初は出場予定者を三十八人と見込んでいましたが、六〇数名の参加があり、結果、牧原さん(四〇歳台)が一二分台で見事に優勝されました。今後このマラソンが大きな競技種目になっていくような、確かな手応えを感じました。

また、メインの自治会対抗戦も大変白熱し、中にはエキサイトする場面もあって、今後の対応策が必要になって参りました。全体的に、幼児からお年寄りの方々まで、皆様それぞれにお楽しみいただけたことと思います。

今回この体育祭を開催するにあたり、協賛金を頂戴した各企業・商店の皆様はじめ、選手集めをしていただいた各自治会の体育委員の皆様、そのお誘いに乗っていただいた参加・応援の皆様、バックアップしていただいた桂坂自治連合会・少年指導委員会・桂坂小学校の先生方、この桂坂の皆様が一丸となって盛り立て下さったからこそ、このような素晴らしい体育祭ができたものと思います。

今後回を重ねるに従って、もっともっと喜んでいただけるような体育祭にして行きたいと考えております。桂坂の皆様方、今後とも末長にお付き合いの程よろしくお願いいたします。有難うございました。



唐櫃越 [1]

「今八四方七ツノ道、唐櫃越アキタレバ、国々ノ運送途絶エ路中士卒兵糧二疲レタリ」——『太平記』に記されているこの描写は、延元元年(二三三六)、京都東寺にいた足利尊氏の軍を攻撃するために、新田軍が「四方七ツノ道」を押さえ、

地までは一直線にたどって行きます。「山田岐れ」の辻からは掘道に入り、道は登り坂になります。昼なお暗い竹林の中を歩いていると、遠い昔にタイムスリッブしてしまったような不思議な感覚にとらわれ、思わず大声で歌ってしまいました。

急な坂道を登り行くと左に地蔵が見え、ホッとした途端、視野に入った墓地。足速やに過ぎ、歩き続けます。地図によれば、この辺りから唐櫃越になるはずで

竹藪の中でいくつも蚊に噛まれ、軍馬ならぬ徒歩で出発して一時間。「園尾」とある木片を目印に、その分岐を左へ行くと山腹に入ります。

いつの間にか心細さを忘れ、自然の中でひとり歩き続ける自分の姿がいつしか透明になり、この山の中に融け込んでしまっているの

ではないかというような錯覚に陥ります。周りには、同じように山の中に融け込み、数百年に亘って歩き続ける鎧兜の武将たちがいるのかも……。目を閉じ、耳を澄まして聞かえてくるのは、名も知らぬ鳥の、遠い声だけ。

この先は、次回に続けることにします。

急の「上桂駅」から衣笠急の記録は二月二十七日の早春のことですが、今は真夏、

「千種頭経、五千餘騎ニテ丹波路唐櫃越ヨリ押寄セ」という正平七年(二三三二)の記録は二月二十七日の早春のことですが、今は真夏、

時おり、老の坂の谷の向うに小塩山が見え隠れしま

この先は、次回に続けることにします。

この先は、次回に続けることにします。

この先は、次回に続けることにします。

この先は、次回に続けることにします。

この先は、次回に続けることにします。

この先は、次回に続けることにします。

桂坂 わがまち

花の木ラウンジ
この先は、次回に続けることにします。

この先は、次回に続けることにします。

この先は、次回に続けることにします。

桂坂の野鳥公園

この先は、次回に続けることにします。

この先は、次回に続けることにします。

この先は、次回に続けることにします。

国際日本文化研究センター
一般公開と講演
十一月八日(水) 一〇時～一六時